

生産革新 マネジメント コース

2021

*Production innovation
management*



現場と経営の観点で、ありたい姿を描き、
「強い工場」をつくる人材の養成

| 期間 | 5月～翌年2月

| 日程 | 木・金曜日 [月1回] 10:00～17:00 ※他 合宿（フィールド・スタディ）3回、海外調査1回（希望者のみ）

| 対象 | 生産関連部門（製造、生産管理、品質、調達など）のリーダー、マネジャー

| 会場 | [経営アカデミー] 東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階
（東京駅丸の内北口より徒歩3分/地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ）

時代の変化を捉え、行動を変える学びの場

経営アカデミーは、公益財団法人日本生産性本部の10周年記念事業として、1965年に創設された我が国初の本格的なビジネススクールの1つです。その時々には時代の変化を捉え、意識を変え、行動を変える学びの場として、これまで15,000名を超える方々に受講いただきました。修了者には経営アカデミー・マスターの称号が与えられ、産業界のリーダーとして多方面で活躍されています。

※修了者には、『経営アカデミー・マスター』の称号が付与されます。(全日本能率連盟登録資格称号第14号)

経営アカデミーが目指す経営人材とは

今日、企業には、大きく二つの挑戦が突きつけられています。SDGsや様々な社会問題が、企業経営において中心的なテーマとなっています。また、デジタル化の大きな流れは、企業の垣根を越えて飛躍的に生産性を高める機会とみなされています。経営アカデミーは、このような大きな時代の変化の中で、自ら課題を設定し、仮説を立て、多様なステークホルダーを巻き込みながら、主体的に価値を創造していく行動力あるビジネスリーダーの養成を目指します。



「多視点で構想する力」「価値を実現する力」「主体的に革新する力」

この3つの力を兼ね備え、次代の経営を創っていくことのできるリーダーです。

現場と経営をつなぎ、「強い工場」をつくる人材の養成

現場と経営の視点で、「強い工場」をつくる

現場側の意見と、経営側の意見——例えば、現場側は、改善活動のサイクルを速くするために、範囲を現場に限定してシステムを構築したい、一方で、経営側はサプライチェーン全体の情報を把握し、経営の意思決定に活用するシステムを構築したい——それらはどちらも正しい意見です。

本コースは、現場と経営の2つの視点で、自社に合ったものづくりを考え、世界と戦える『強い工場』をつくることのできる人材の養成を目指しています。

デジタル技術のブームが去った後に残るもの

IoTやAIなど、デジタル技術がブームになっています。デジタル技術は、ものづくりのプロセスを大きく変える可能性があります。しかし、データを見ているだけでは、現場で何が起きているかは分かりません。その意味で、私たちはこれからも、ものづくりの本質は現場にあり続けると考えています。

本コースでは、これまで日本企業の強みと言われた現場力とデジタル技術を融合した、次代のものづくりを考えると同時に、このデジタル技術のブームが去った後に何が残るのかを議論します。それこそが、自社のものづくりの核になるものであり、競争力の源泉だと考えます。

本コースで高める3つの能力

工場経営力

現場マネジメント

主体的革新力

ものづくりへの想い

10年後を見据えて、自社のありたい姿を描く

現場の視点

- 現場の競争力
IE、適正在庫、レイアウト、物流
- 問題発見・課題設定力
グループ研究・フィールド・スタディによる仮説構築

経営的課題を見つける

グループ研究
工場幹部との対話

経営の視点

- 工場のマネジメント
戦略、組織文化、CSV、リーダーシップ
- グローバル生産
日本と海外の工場の役割、頑強なサプライチェーン

ものづくりを考える

現場力×デジタル技術
工場見学・海外調査（アジア）

「強い工場」をつくる

本コース講師陣

Instructors

[コース委員長]

[コーディネーター]

[グループ指導講師]



木股 昌俊
クボタ
代表取締役会長



河野 宏和
慶應義塾大学大学院
経営管理研究科 教授



平川 保博
東京理科大学
特任副学長



坂爪 裕
慶應義塾大学大学院
経営管理研究科 教授



伊呂原 隆
上智大学 理工学部
教授



稲田 周平
慶應義塾大学 理工学部
准教授

浅井 浩一	日本マネジメントケアリスト協会 理事長 (元日本たばこ産業)	小川 正樹	MEマネジメントサービス 代表取締役	新宅 純二郎	東京大学大学院 教授
石川 歩	アイルインターナショナル 代表	加藤 篤士道	日本生産性本部 主席経営コンサルタント・公認会計士	丹野 幸敏	アグリゲータージャパン 代表取締役 (元アマゾン、日本航空)
市来 寄 治	慶應義塾大学大学院 専任講師	河野 宏和	慶應義塾大学大学院 教授	徳山 誠	プレビス 代表取締役 (元三菱自動車工業)
稲田 周平	慶應義塾大学 准教授	坂爪 裕	慶應義塾大学大学院 教授	藤野 直明	野村総合研究所 主任研究員
伊呂原 隆	上智大学 教授	篠田 心治	成蹊大学 教授	平川 保博	東京理科大学 特任副学長
梅崎 修	法政大学 教授	芝田 稔子	湯浅コンサルティング コンサルタント (元日通総合研究所)	吉沢 昇司	ジーニアスホープ 代表取締役 (元ベネッセコーポレーション)

(過去2年実績)

日程概要

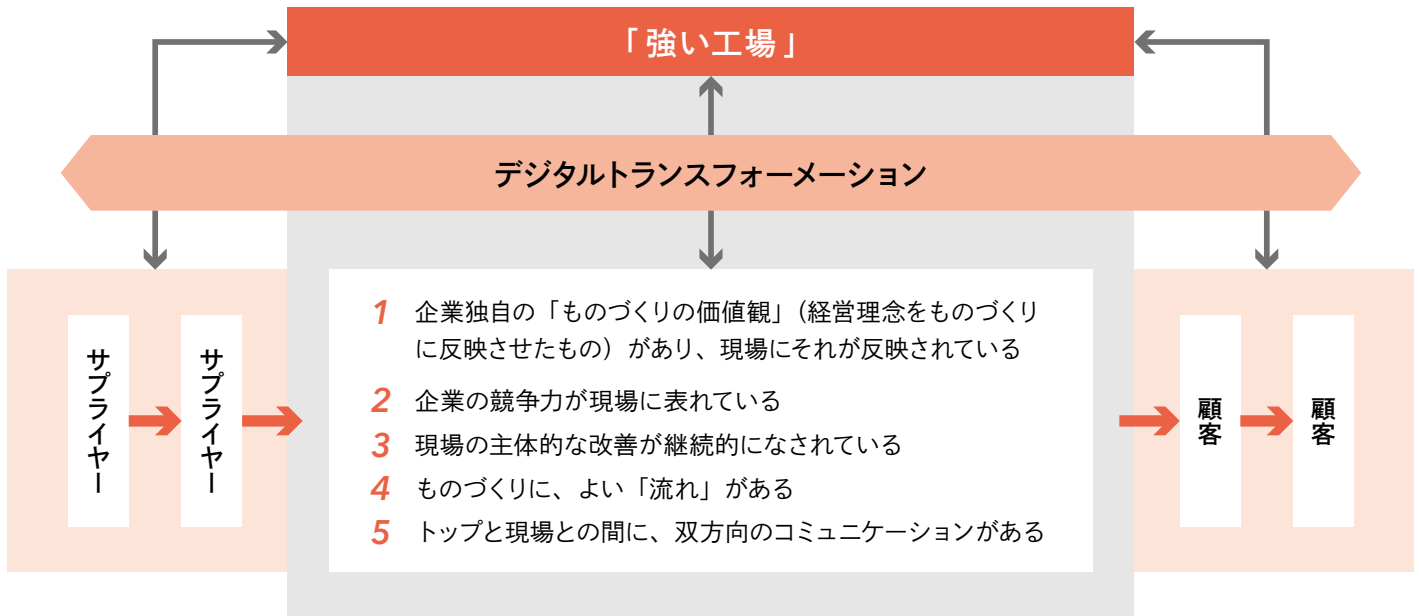
Schedule summary

月	テーマ	グループ研究 (現場実習)、 フィールド・スタディ (他社工場視察)	自己課題
5月	現場と経営の視点 ・ 企業経営と企業体質 ・ 現場を活かすグローバル経営		自己分析 目標設定
6月	デジタル技術と改善 ・ 現場のプロセスイノベーション能力 ・ デジタル技術と改善活動の融合	グループ編成	各講義フィードバックシート (レポート) 作成
7月	品質・設備投資 ・ 設備投資の意思決定 ・ 品質の作り込み	仮説構築・現場訪問 オンライン打ち合せ	フィードバックシート提出①
8月	サプライチェーン ・ よい「ものの流れ」の設計 ・ 物流戦略	現状分析・現場訪問 *フィールドスタディ (工場訪問)	
9月	現場力 ・ よい「現場」の構築 ・ 上流工程からの現場改善	現状分析・現場訪問 ゴールとテーマの設定	
10月	経営理念とものづくり ・ ものづくりの価値観 ・ 現場が動き出す KPI	テーマ発表	
11月	グローバル戦略 ・ 日本の工場の役割 ・ 世界各国のものづくりの趨勢	現場訪問・テーマの深堀 *フィールドスタディ (工場訪問)	フィードバックシート提出②
12月	工場の競争力 (1) ・ DXの設計とデータ分析 ・ ものづくりとデジタル技術の最前線	現場訪問 生産革新提案	
翌年 1月	工場の競争力 (2) ・ 工場のCSV戦略 ・ コンプライアンス	現場訪問 *フィールドスタディ (工場訪問) 提案内容の検証	
2月	工場の競争力 (3) ・ 工場の強みを引き出すリーダー	効果測定・今後の課題と気づき 報告書 (生産革新提案) 作成	フィードバックシート提出③

※プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

なぜ企業ごとに競争力の差が生まれてくるのか？

この命題に対して、私たちは50年以上にわたり、ものづくりの観点で、持続的な競争優位について議論してきました。デジタル技術が進化し、サプライチェーン同士の競争になっている今日においても、地道な改善活動やたゆまぬ生産革新が重要であることは揺るぎません。その上で、本コースでは、次の要素を持つ工場が、長期的な競争力を有する「強い工場」だと考えています。



本コースでは、サプライチェーン全体を見据えつつ、徹底した現場実習（グループ研究）で現場と向き合い、実践力を磨きます

講義・演習

工場幹部に求められる、ものづくり全般の理論・考え方を体系的に学びます。

グループ研究（現場実習）

異業種の現場に入り込み、生産革新案を立案・導入してもらい、効果を検証します。

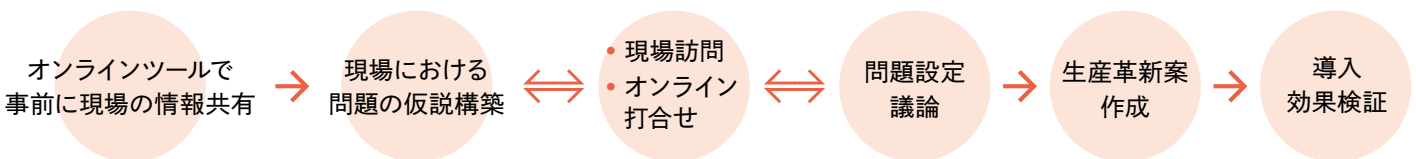
フィールド・スタディ（他社工場視察）

テーマに沿って他社工場を訪問し、改善活動はもとより、人材育成のねらいや考え方などを伺います。

特長

本コースでは、「現場を見る」感覚を重視しており、グループ研究（現場実習）で実際に現場に入り込み、「強い工場」をつくるための視点を養います。

[グループ研究（現場実習）の流れ（約9ヶ月）]



生産革新例：「実需起点による清流化」

生産計画と実需がマッチングせず、結果的に様々な工程でムダが出ていたA工場を対象に実施。
→ 全体のものの流れを把握し、上流工程で問題の芽を摘む取組みを実施し、約2,500万円のコスト削減

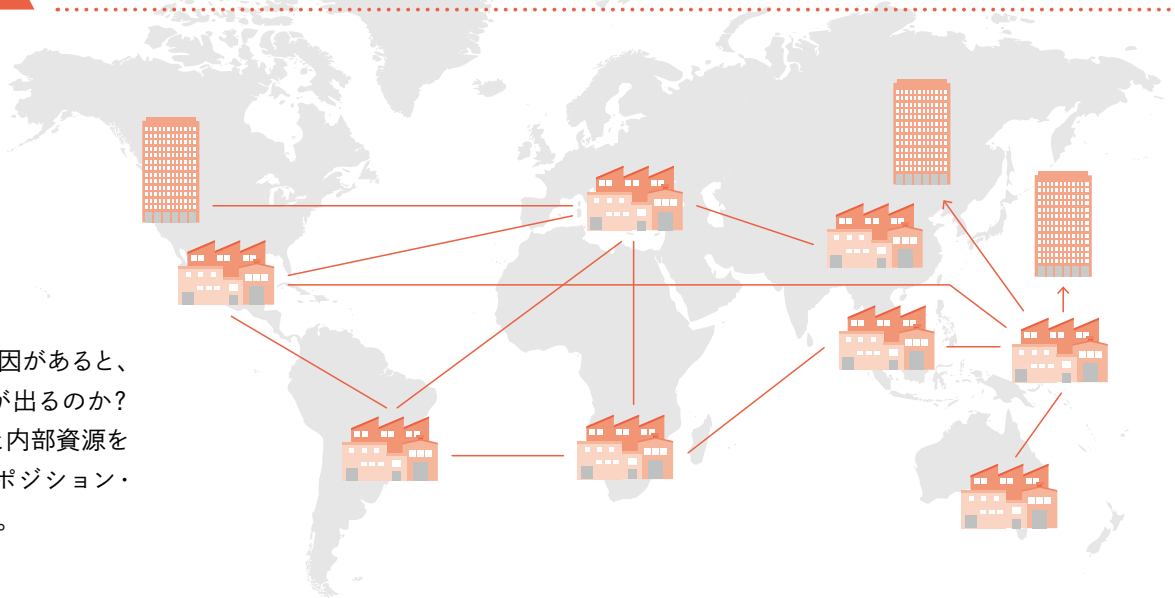
※ 経営アカデミーのコースの実施方法について対面・集合が難しい場合に備えて、オンラインにて受講いただけるように、整備を進めています。

全体 [工程内 ↔ 工程間 ↔ 部門間 ↔ 工場全体 ↔ 会社全体 ↔ サプライチェーン全体] を俯瞰し、企業の持続的な競争力を実現するための工場の役割、現場の課題を考えることで、ものづくりを理解した経営人材の育成を目指します。

マクロ視点

サプライチェーン全体の中で、よい「ものの流れ」をつくる・広い視点で考える

どのような外的要因があると、どの工程に影響が出るのか？外部環境の変化と内部資源を意識し、自社のポジション・強みを再考します。



ミクロ視点

現場に入り込んで考える

当コースでは、サプライチェーン全体の中で、自社の工場の役割・強みを捉え直し、よい「ものの流れ」をつくる上で必要なものづくりのあり方を考えます。また、様々な工場を訪問し、自社と比較することで、自社の現在位置と目指すべき方向性を考えます。
※当コースでは、現場に行く機会を多く設けています。

現場マネジメント力

よい品質をつくる
Quality



よい「ものの流れ」をつくる
Flow



よい改善活動を継続する
Improvement



よいチームワークをつくる
Teamwork



一人ひとりのモチベーションを高める
Motivation



工場視察先



[国内]

- ① ホシザキ様
- ② 島根富士通様
- ③ ヤッホーブルーイング様
- ④ シチズンマシナリー様



[海外調査]

- ① タイヤクルト様
- ② タイ日産自動車様
- ③ サイアム・クボタ・コーポレーション様
- ④ ティービーケーケー・タイランド様
- ⑤ ジャトコ・タイランド様
- ⑥ ブリヂストン・タイヤ・マニュファクチャリング・タイランド様
- ⑦ インテージタイ様

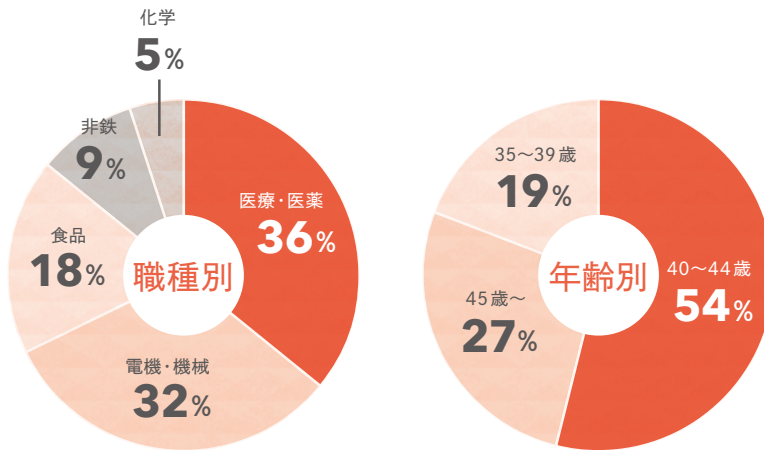
※ 日本インダストリアル・エンジニアリング協会との連携プログラム

よい「ものの流れ」をつくるのが大切だとよく言われる。これまでは、工場内のものの流れにしか目が向かなかったが、本研修に参加して、工場内だけではなく、上流・下流のサプライチェーン全体のよい「ものの流れ」を考えるようになった。

そのような見方ができるようになってから、社内の会議や打ち合わせでの発言が明らかに変わってきたように感じる。人材育成のキーワードは「成長実感」と聞かすが、自分がまさに成長したという手応えを感じることができた。大変だったが、社会人生活の中でもとりわけ思い出深い1年となった。

このコースでは、現場に行く機会が幾度となくある。現場に行き、短時間で問題点を議論するなど、とにかく求められる内容がハードだったが、異業種の工場の問題点を考える経験を積むと、次第に現場を見る眼というものが磨かれていく。

名医が患者のカルテを見て、すぐに異常に気付くようなものである。問題の捉え方が間違っていると、その未来は暗い。この研修では、現場基点で、企業経営の広がりを感じることができるまたとない経験を得ることができた。



グループ研究 (現場実習)、フィールド・スタディ (他社工場視察) (コロナ禍前の様子)

〈最近の参加企業〉

IHI、TBK、TDK、キヤノン電子、クボタ、ジーエルサイエンス、東光高岳、鍋屋バイテック、湯山製作所、キッコーマンフードテック、なとり、日本水産、日清オイリオグループ、明治、理研ビタミン、雪印メグミルク、旭化成、関西ペイント、杏林製薬、日本サーファクタント工業、日本色材工業研究所、日本軽金属、日本ポリプロ、住友大阪セメント、太平洋セメント、テルモ、富士レピオ、メルテックス、ロート製薬、アルファ、廣済堂、コマツ、総合車両製作所、東タイ、バコーボレーション、日本結晶光学、日本信号、日立製作所、ホシザキ、白銅、ミツトヨ、シチズン時計マニュファクチャリング、ヤッホーブルーイング、UACJ

(企業名は参加当時のものも含む)

お申込み要領

Outline

【お申込み手順】

- 01 申込書をお問い合わせ先WEBページよりダウンロードし必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお送り下さい。申込みWEBページから直接お申込みいただくこともできます。
- 02 申込書受領後、確認のお電話を差し上げます。

【参加費】(2021年度予定金額)

賛助会員	98万円 (10%税込み 107.8万円)
一般	108万円 (10%税込み 118.8万円)

参加費に含まれないもの

国内合宿費 (1回あたり5万円程度)、海外調査費 (30~35万円程度)、通学・合宿・企業インタビュー等の交通費、グループ研究の著書・資料代、他個別に発生する費用

経営アカデミー コース一覧

経営アカデミーとは、1965年に産業界の発意と学界の協力により創設されたわが国で最初の本格的な経営大学院です。当アカデミーを修了された方々は15,000名を超え、産業界のリーダーとして活躍しています。

マネジメント・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（）内10%税込	
				賛助会員	一般
トップマネジメント・コース	2021年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	120万円 (132万円)	130万円 (143万円)
				合宿費、海外調査費別	
経営戦略コース	2021年6月～2022年3月	部長、課長(全職種)	自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	111万円 (122.1万円)	121万円 (133.1万円)
				合宿費別	
技術経営コース	2021年6月～2022年2月	技術部門、研究・開発部門の部長・課長・リーダー	CTO目線で技術を価値化するリーダーの養成	111万円 (122.1万円)	121万円 (133.1万円)
				合宿費別	
組織変革とリーダーシップコース	2021年5月～2022年2月	部・課・プロジェクトチーム等の組織運営を行うリーダー	人・組織・戦略の視点で、組織変革を推進できる次世代リーダーの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
				合宿費別	

プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（）内10%税込	
				賛助会員	一般
マーケティング戦略コース	2021年6月～2022年2月	マーケティング・営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
				合宿費別	
生産革新マネジメントコース	2021年5月～2022年2月	生産関連部門(製造、生産管理、品質、調達など)のリーダー、マネジャー	現場と経営の観点で、ありたい姿を描き「強い工場」をつくる人材の養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
				合宿費、海外調査費別	
人事革新コース	2021年6月～2022年2月	人事・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人材マネジメントに革新を起し、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
				合宿費、海外調査費別	
経営財務コース	2021年6月～12月	財務、経理、IR、リスクマネジメント、企画・管理部門のマネジャー・リーダー	企業価値の向上をリードする、CFO候補の養成	98万円 (107.8万円)	108万円 (118.8万円)
				合宿費別	

イノベーション・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（）内10%税込	
				賛助会員	一般
事業変革イノベーションコース	2021年6月～12月	事業責任者、企画・グループ管理・監査部門の責任者、戦略スタッフ	トップや現場を巻き込みながら変革に邁進する中核リーダーの養成	125万円 (137.5万円)	135万円 (148.5万円)
				合宿費別	
イノベーション・デザインコース	2021年4月～7月	中堅・若手リーダー	企業の実力で未来を変革するイノベーション・デザインリーダーの養成	67万円 (73.7万円)	77万円 (84.7万円)
				合宿費含む	

[国内合宿費] 1回当たり3～7万円(経営財務コースは合宿費のほかにビジネスゲーム使用料1万円程度)

[海外調査費] トップマネジメント・コース 40万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース 30～35万円程度

※参加費に含まれないもの:丸の内教室通学・合宿・企業見学・インタビュー等の交通費、グループ研究の図書・資料代、その他、個別的・追加的に発生する費用

※参加費、その他費用は2021年度の予定金額

お申込み・お問い合わせ先



公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階

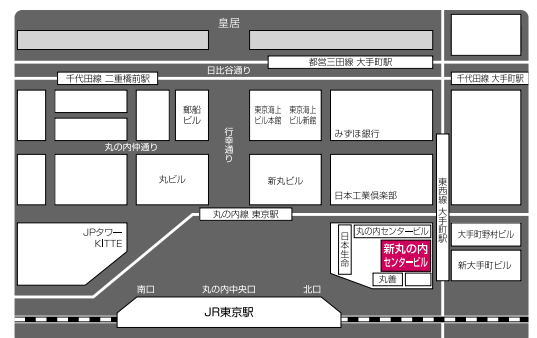
[Tel] 03-5221-8455 [Fax] 03-5221-8479

[Mail] academy_info@jpc-net.jp [Web] https://k-academy.jp/

お申し込みはこちら [WEBサイト] <https://k-academy.jp/>

賛助会員制度につきましては、下記までお気軽にお問い合わせください。

[会員サービスセンター] 03-3511-4026



東京駅丸の内北口より徒歩3分、地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ